

知財の強み・弱みと顧客ターゲットの組み合わせに着目した知財評価技法に関する考察

寺地洋之(大阪工業大学建築学科)・宮脇一(情報工房株式会社)・北村光司(Sei ju 国際知財事務所)・下出一(株式会社サビエンティスト)

キーワード：知財評価、知財活用、収束発散技法、5x5x2 マトリックス、顧客ターゲット、ペルソナカード

1. はじめに

本考察で述べる知財評価技法は、知財の強み・弱みに着目した知財評価収束技法での診断結果をふまえ、知財開発者が想定された顧客ターゲットを意図的に変更する事でアイデアを発散させ、知財の眠っている価値を引き出すものである。本考察では、本技法で使用する強み・弱みカード、5x5x2 マトリックス、アレンジカード、ペルソナカードという診断ツールの特徴と、本技法による診断方法全体の流れ(本技法の構成)について説明するとともに、本技法の可能性について言及する。

2. 知財評価技法の構成

当技法の全体フローチャートを図1に示す。診断フェーズは大きく4つに分かれる。それぞれのフェーズは、第1段階の事前診断から始まり、以後、強み弱み診断、ニーズアレンジ診断、ペルソナアレンジ診断と続く。事前診断と強み弱み診断は、知財の評価を収束させ、知財や商品の持っている強みや弱みを明らかにする。後半のニーズアレンジ診断、ペルソナアレンジ診断は、知財・商品の可能性を広げ、新たな価値や可能性を模索するためのものである。

このフローチャートをもとに、各診断ツールを使い、診断フェーズを順次組み合わせることで、診断目的に沿った合理的な診断を短時間で進めることができる。

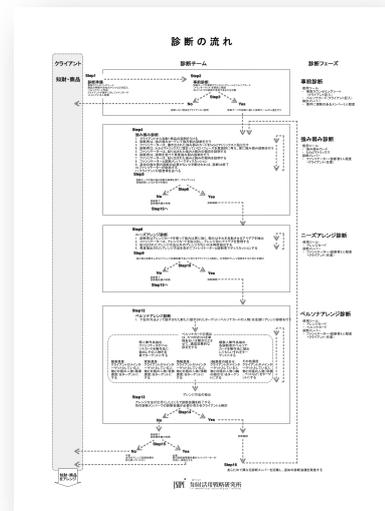


図1. 知財評価技法のフローチャート

3. 各診断フェーズで使用される診断ツール

各診断フェーズでは、診断目的を達成するのに効果的な技法とともに、それらをサポートするツールを開発した。サポートツールは、強み・弱みカード、5x5x2 マトリックス、アレンジカード、ペルソナカードの5点である、以下、各ツールの概略を説明をする。

強み・弱みカード：

強み・弱みカード(図2)は知財の強みと弱みを抽出するツールである。クライアントが想定するターゲットをイメージしながら、知財の強み・弱みを2段階で表記する。矢印部分には、「が」「は」「に」「なので」などを入れ1枚に1つのことを記述する。これは診断者が指摘事項を1つに絞らせるためのものであり、書かれたカードをファシリテーターが容易に分類できるようにするためのものである。左右下の隅部に強みと弱みのチェックボックスがあり、ここにチェックマークを記入する事で、このカードが強みか弱みであるかを簡単に明示できる。

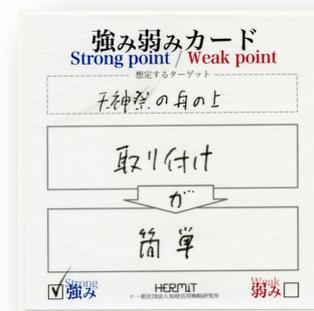


図2. 強み弱みカード

5x5x2 マトリックス：

強み・弱みカードでの診断アウトプットは、図3に示す5x5x2マトリックス(強みの5×5=25枠と弱みの5×5=25枠のいずれかの枠目)に配当して整理・分類する。横軸はものが生まれて消えるまでの時系列軸であり、縦はものの要素を表す要素軸である。この表を念頭におけばファシリテーターは抽出結果を分類しやすくなる。また、

抽出の漏れも少なくなる。左右対称であるので、左の強みがなく右の弱みばかりが出ている昇目の項目はかなり問題を抱えていることを可視化できる。マトリックスで可視化できることは、言葉だけの診断レポートより診断の客観性を担保できる。そして、クライアントにも診断結果を納得してもらいやすくなる。

アレンジカード：

アレンジカード（図4）は、ターゲット、ニーズ、アレンジ、ベネフィットの4つの思考キーワードをもとに、診断者は強みを更に強くする方法、弱みを改善し強みにアレンジする方法などを抽出するためのツールである。ニーズとは機能でなく、ターゲットが欲している必要性であり、ベネフィットとは、その欲求が満たされた時に得られる効果である。ニーズ先行で思考する事は、発想の可能性が広がると考えている。

ペルソナカード：

図5にペルソナカードを示す。異なる顧客ターゲットを意図的に変更することで、新たな顧客の視点からニーズを見出し、診断者の思考を刺激しながらアレンジの幅を広げるためにこのカードを活用する。アレンジをさらに促進するように合理的にキャラクターの振れ幅を拡張する切り口として、仕事、家族、情報の3カテゴリーにおいて濃度設定を行い、効果的な診断の指標として活用する。ペルソナカードは、主要な顧客像を網羅し、128種のカードを用意している。

4. 本技法の特徴と可能性についての考察

本技法は、知財対象である「仮想の物等」にもとづき、対象物の価値を大きく逸脱せずに改良を加えることができる。元のアイデアを全否定するのではなく、そのエッセンスを活かす意味で、知財活用に資することとなる。特に、対極値のペルソナカードを組み合わせ、意図的に発想を刺激する点は、仮想の物等自体の構成の変更と新たな顧客開拓（マーケティング）とを同時に達成しうる点で、従来の手法にはみられない優れた点である。いわば、構成とマーケットを「同時に微調整」して、知財の発想をマーケットに適合させ、「知財に命を与える」作業と言える。

KJ法等の発想技法は、問題点などを討議することには向いているかもしれない、しかし、いわゆる死の谷で身動きのとれない知財を救出することには必ずしも結びつかない。このような状態を繰り返すことは、研究開発の効率という面において望ましくない。当技法では、上述の「同時に微調整」を短時間かつ合理的に達成できる。よって、当技法が普及すれば、日本全体の研究開発効率の底上げとなる可能性を秘めたものであると考える。

PM	強み				弱み				PM			
	得意とする											
71		54	7	10		1	25	3	13	122		
41		39	2			2	33			35		
12		8		4			22			23		
9		8					7			7		
6		1		5		3			1	4		
PM	0	0	110	9	19	PM	4	27	140	14	0	160

図3. 5x5x2マトリックス

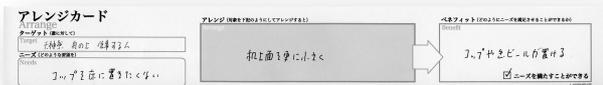


図4. アレンジカード

personal		job
仕事・職業	建築設計（自営）	3
名前	寺尾 洋	2
年齢	48歳	1
性別	男性	0
住所	兵庫県	
血液型	O型	
年収	800万円	
学歴	大学 → 米国大学客員研究員	
性格	几帳面でこだわり派	
趣味・特技	トランペット演奏（12人編成のバンドに所属）	
お気に入り	抽象絵画の数々	
family		family
家族構成	妻（46歳） 息子（13歳） 息子（10歳）	2
世帯年収	800万円	1
車 etc	BMW（小型クーペ）、自転車（クロスバイク）	
友達	バンド仲間、大学・高校の同級生	
時間・金銭ゆとり	仕事から解放される時間はわずか	
life		information
情報リテラシー	1. メール・WEB閲覧をする ○ 2. ECサイト・SNS（LINE）の活用が得意である × 3. ECサイトの活用が得意である × 4. SNSの活用が得意である ×	1
生活スタイル	朝から深夜まで設計活動に明け暮れる。クライアントとの打合せと現場での打合せに多くの時間をいかに設計するかについて考える。近年、視力が減退して、裸眼で建築を把握しにくい事が多々ありショック。いかに視力を落とさないかが健康上の関心事。息子の成長は楽しいが早く自立して、扶養の十字架から解放されたいと望む。トランペットのアドリブ練習をしたいが、時間が取れない事が悩み。	

図5. ペルソナカード